

学科	美容科	担当教員	宗像		
科目名	関係法規・制度	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	国家試験に合格することを目標に、今まで習得した知識をもとに得点できるよう、実際の国家試験や独自問題を用いて演習を重ねる。苦手意識の高い分野については繰り返し理解を促す講義を取り入れる。				
授業回	学習内容			備 考	
1	関連法規（生衛法）【到達目標】生衛法が何を規定しており、どのような制度が用意されているかを説明できる。				
2	関連法規（労働法・日本政策金融公庫法）【到達目標】美容師が労働者としてどのように法律に守られているか、また経営者としてどのように労働者を使用するかイメージをもつことができる。資金調達の際、日本政策金融公庫にはどのような制度が用意されているか説明できる。				
3	関連法規（顧客に関する法律）【到達目標】美容師・経営者として関わる顧客に関してどのような法律が用意されているか説明できる。				
4	問題演習1【到達目標】美容師免許の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる。				
5	問題演習2【到達目標】美容所開設の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる。				
6	問題演習3【到達目標】行政処分・罰則の問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる。				
7	問題演習4【到達目標】総合問題・横断的な問題を中心に、正確な知識をもとに正答を導くことができる。				
8	学科試験				
到達目標	国家試験合格に向けて、美容師法の正確な知識を取得できているかを自ら確認しつつ、弱点を把握し、補強する。足りない知識についてはその都度見返し、自分の知識としていく。知識を用いて的確に問題の意図を掴み、正答する。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	教科書（関係法規・制度 公益社団法人日本理容美容教育センター）				

学科	美容科	担当教員	小池		
科目名	衛生管理（環境衛生・公衆衛生）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	15
教育目標・ ねらい	1．公衆衛生について基本的考え方を身に着ける。2．美容業に就いた時に役立つ知識とする。3．国家試験で得点できる力をつける。				
授業回	学習内容			備 考	
1	環境要因の分類、恒常性、空気成分の特徴、温熱環境について整理して理解する。具体的には重要ポイント穴埋めシートを完成させることで理解する。さらに関連する過去国家試験問題を解くことで理解がさらに深まる。			関連する過去国家試験 類似問題にて小テスト	
2	衣料の役割と衣料材料の性質、採光と照明、換気冷暖房について整理して理解する。具体的には重要ポイント穴埋めシートを完成させ、関連する過去国家試験問題を解くことで理解をさらに深める。一部建築的な用語・照明用語は写真と照合できるようになる。			関連する過去国家試験 類似問題にて小テスト	
3	上・下水道と廃棄物、衛生害虫について整理して理解する。具体的には重要ポイント穴埋めシートを完成させ、関連する過去国家試験問題を解くことで理解をさらに深める。			関連する過去国家試験 類似問題にて小テスト	
4	公衆衛生とは、WHOの健康とは、ヘルスプロモーションとは、を自分の言葉で説明できる事を目指す。公衆衛生の歴史上の登場人物と功績を把握し理解する。			登場人物と功績について 小テスト	
5	保健所業務と美容業とのつながりを理解。成人・高齢化のトレンドを理解する。粗死亡率と年齢調整死亡率からわかることを考える。			過去国家試験相当レベル 問題小テスト	
6	生活習慣病と健康日本21の関係について、がん、循環器疾病、虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病、COPD、アルコールに関して詳細を理解する。			過去国家試験相当レベル 問題小テスト	
7	母子保健、高齢者の保健福祉、身体的機能低下の疾病4つ、精神疾病の特徴と支援する社会の仕組みを理解する。			過去国家試験相当レベル 問題小テスト	
到達目標	毎回実施する理解度チェック小テストの平均点が6割以上とする。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	授業では、教科書文章や国家試験問題を用い重要な部分を穴埋めできるプリント及び国家試験過去問題を編集したプリントを毎回準備する				

学科	美容科	担当教員	小池		
科目名	衛生管理（感染症）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必須	授業時間 （単位）	15
教育目標・ ねらい	1. 感染症と美容業の関係について理解し重要であることを認識する。2. 美容業に就いた時に役立つ知識とする。3. 国家試験で得点できる力をつける。				
授業回	学習内容			備 考	
1	感染重要基本ワードについて理解する。疾病(ハンセン病・痘そう・ペスト・結核・スペインがぜ)の歴史と現在の状況を理解する。感染源発見からワクチンまでの歴史を理解する。感染症に関する法律と区分を理解する。			登場人物と功績について小テスト	
2	2類感染症、3類感染症、空気感染、飲食感染、血液感染、動物感染について区分出来るようにまとめる。感染経路及び就業制限に関する国家試験過去問題を解き覚えるべき内容を特定することが獲得目標。			関連する過去国家試験類似問題にて小テスト	
3	微生物の大きさ比較と細菌・ウイルスの特徴をまとめて理解する。方法として重要ポイント穴埋めシートを埋める。その後対象範囲の過去国家試験問題を解き理解を深める。			関連する過去国家試験類似問題にて小テスト	
4	微生物の病原性と人体の感受性について理解する。常在細菌叢、感染症予防3原則、予防接種について理解する。重要ポイント穴埋めシートを埋める。その後対象となる過去国家試験問題を解き理解を深める。			関連する過去国家試験類似問題にて小テスト	
5	空気感染、飲食感染、血液感染、動物感染について暗記する時間とし、成果物は何も見ずに確認用紙に疾病名を選択枝から選び分類できること。これができた後に感染経路に関する国家試験問題を解き、容易に感じる事が獲得目標。			関連する過去国家試験類似問題にて小テスト	
6	結核・B型肝炎・麻しん・風しん・腸管出血性大腸菌感染症・梅毒について重要ポイントを穴埋めシートを用いてまとめる。その後対象範囲の過去国家試験問題を用いて理解を深める。			関連する過去国家試験類似問題にて小テスト	
7	感染症の総復習。時間的に十分に実施できなかった部分や小テストの平均点数が低かった部分を中心に実施する。			期末試験用の問題にて小テスト	
	学科試験				
到達目標	毎回実施する理解度チェック小テストの平均点が6割以上とする。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	授業では、教科書文章や国家試験問題を用い重要な部分を穴埋めできるプリント及び国家試験過去問題を編集したプリントを毎回準備する				

学科	美容科	担当教員	小池		
科目名	衛生管理（衛生管理技術）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	15
教育目標・ ねらい	1. 衛生管理技術の理解で美容業の業務を怪我無く的確な消毒業務ができるようになる。2. 美容業 務上で活用できる濃度希釈計算を身に着ける。3. 国家試験で得点できる力をつける。				
授業回	学習内容			備 考	
1	前半；病原微生物・消毒の原理・意義・定義を明確にする。消毒に関する関 連法規を理解する。後半；希釈を使う計算問題の実践。			消毒定義・理論に関 する小テスト	
2	前半；消毒法の条件、効力について教科書を見ながら消毒表簡易版を完成さ せる。後半；％とppm混合比希釈倍数の出題表現方法の違いを認識しながら 解く			消毒表簡易版に関す る小テスト	
3	前半；血液が付着した器具の消毒方法についての国家試験過去問題を、消毒 表簡易版を用いて解いていく。後半；％ppm混合比希釈倍数を用いた計算問 題の実践。			血液付着時の消毒条 件に関する小テスト	
4	前半；理学的消毒方法の消毒表詳細版を教科書参照にて完成させる。後半； 希釈を使う計算問題の実践。			理学的消毒方法に関 する小テスト	
5	前半；化学的消毒方法の消毒表詳細版を教科書参照にて完成させる。後半； 希釈を使う計算問題の実践。			化学的消毒方法に関 する小テスト	
6	前半；希釈操作や消毒対象物の違いによる消毒方法の選択に関する過去問題 を解く。後半；希釈を使う計算問題の実践。			希釈操作等に関する 小テスト	
7	消毒法の総復習。時間的に十分に実施できなかった部分や小テストの平均点 数が低かった部分を中心に実施する。			期末試験用の問題に て小テスト	
到達目標	毎回実施する理解度チェック小テストの平均点が6割以上とする。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考 慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することがで きない。				
テキスト	授業では、教科書文章や国家試験問題を用い重要な部分を穴埋めできるプリント及び国家 試験過去問題を編集したプリントを毎回準備する				

学科	美容科	担当教員	田島		
科目名	保健(人体)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	人体の構造(解剖学)と機能(生理学)を理解し、特に頭頸部について深い知識を習得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章 頭部・顔部・頸部の体表解剖学 第2章 骨格器系			小テストを実施	
2	第3章 筋系			小テストを実施	
3	第4章 神経系			小テストを実施	
4	第5章 感覚器系			小テストを実施	
5	第6章 血液・免疫系 第7章 循環器系			小テストを実施	
6	第7章 呼吸器系 第8章 消化器系			小テストを実施	
7	人体の構造と機能のまとめと試験対策			小テストを実施	
8	定期試験				
到達目標	頭と顔を中心とした美と健康に携わる美容師にとって、必要不可欠な人体の基礎的知識を習得する。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	保健（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	美容科	担当教員	田島		
科目名	保健(皮膚科学)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	皮膚科学を詳細に学ぶことにより、皮膚と毛髪の健康管理ができる深い知識を習得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	第1章 皮膚の構造			小テストを実施	
2	第2章 皮膚付属器官の構造-1			小テストを実施	
3	第2章 皮膚付属器官の構造-2			小テストを実施	
4	第3章 皮膚の循環系と神経系			小テストを実施	
5	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能-1			小テストを実施	
6	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能-2			小テストを実施	
7	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健-1 及び 試験対策			小テストを実施	
8	上記内容の皮膚科学に関する前期試験			定期試験	
到達目標	美と健康に携わる美容師にとって、必要不可欠な皮膚科学の基本的知識を習得する。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	保健（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	美容科	担当教員	田島		
科目名	保健(皮膚科学)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	皮膚科学を詳細に学ぶことにより、皮膚と毛髪の健康管理ができる深い知識を習得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健-2			小テストを実施	
2	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健-3			小テストを実施	
3	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患-1			小テストを実施	
4	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患-2			小テストを実施	
5	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患-3			小テストを実施	
6	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患-4			小テストを実施	
7	皮膚科学全般のまとめと試験対策			小テストを実施	
8	皮膚科学全般に関する試験			定期試験	
到達目標	美と健康に携わる美容師にとって、必要不可欠な皮膚科学の基本的知識を習得する。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	保健（日本理容美容教育センター指定教科書）				

学科	美容科	担当教員	村田		
科目名	香粧品化学	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	香粧品に用いられる薬剤の成分や効能を学ぶことを通して理容師・美容師に必要な化学的分野の知識習得を目指す。				
授業回	学習内容			備 考	
1	導入、香粧品の定義、取り扱い 【基礎化学】物質の構成				
2	水性・油性原料 【基礎化学】物質の量、溶解、コロイド				
3	界面活性剤 【基礎化学】酸・塩基				
4	高分子化合物、色材、香料				
5	配合成分（防腐剤・殺菌剤・紫外線吸収剤・酸化防止剤・収れん剤）				
6	基礎香粧品 ネイル・まつ毛エクステンション材料				
7	メイクアップ用香粧品（ベースメイクアップ・ポイントメイクアップ）				
	学科試験				
授業回	学習内容			備 考	
8	ヘア用香粧品①（シャンプー・パーマ・カラー）				
9	ヘア用香粧品②（シャンプー・パーマ・カラー）				
10	芳香製品・特殊香粧品（サンケア製品）				
11	総合問題演習①				
12	総合問題演習②				
13	総合問題演習③				
14	総合問題演習④				
	学科試験				
到達目標	理容師・美容師の通常業務における使用薬剤などの効能や手法などの知識習得				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本理容美容教育センター「香粧品化学」				

学科	美容科	担当教員	高橋		
科目名	文化論	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12
教育目標・ ねらい	日本と西洋の歴史の中に見る美容が時代背景の中でどのような美しさを求めてきたかを考える。美の成り立ちやあり方を知ること、新しいデザインへの創造力を高め、お客様からコンセンサスを得るために必要な知識を身に付ける。				
授業回	学習内容				備 考
1	文化論を学ぶ目的、日本の美容業の歴史 【到達目標】文化論を学ぶことで得られる考察について話し合う。理美容業の成り立ちや法律について理解し、将来の美容業界の動向や将来性について私見を持てるようになる。				
2	近代（明治・大正・昭和20年まで）の髪型・化粧・服装 【到達目標】西洋文化の導入から戦争への歴史的流れや女性の社会進出に至る経緯を考える。世相を反映した文化を髪型・化粧・服装で区別できるようになる。				
3	現代（1945年～2000年代以降）の髪型・化粧・服装 【到達目標】第2次世界大戦後の復興と高度経済成長期の海外からの影響を考える。生活文化の向上に伴う、若者文化・流行の風潮を理解する。1980年代以降の人々の価値観の多様化により、トレンドも多様化した、それぞれの潮流について区別できるようになる。				
4	礼装の種類 【到達目標】男女の礼装(洋装・和装)を学び、正しい装いを理解する。美容理論Ⅱの教科書を使用し、着付技術の知識に結びつけて理解する。				
5	練習問題 〔礼装の種類 現代の文化〕 【到達目標】1945年以降の髪型・化粧・服装について、また礼装の種類や特徴について問題形式で復習し、理解していないところを確認する。				
6	練習問題 〔近代の文化〕 【到達目標】明治・大正・昭和20年までの髪型・化粧・服装について、問題形式で復習し、理解していないところを確認する。				
到達目標	時代における流行の背景からファッション(髪型・化粧・服装)の移り変わりを学び、各時代の流行を理解する。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	日本理容美容教育センター「美容文化論」、「美容技術理論Ⅱ」、プリント				

学科	美容科	担当教員	高橋、杉下		
科目名	文化論（ファッション学）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	10
教育目標・ ねらい	FASHIONの意味/FASHION全般についての知識を得る				
授業回	学習内容			備 考	
1	★ファッション業界について知る ①ファッションとは何か・アパレルとは ②日本のファッション業界について ③流行とは(次回の授業につながる)				
2	★ファッションと社会のつながり・時代の流れについて ①ファッションの時代背景について				
3	②現代～これからのファッション/AI ③世界のデザイナー・ブランドについて				
4	★コーディネートについて ①スタイリング第1条件とは ②ファッションのイメージ作りについて ③Itemsと名称について				
5	★全授業をふまえてファッションについて考える 自分たちの時代から見たファッションの何を考えるか （授業はグループワークを予定）				
到達目標	ファッションについて最低限のi意味・知識を得る。				
評価方法	fileの内容・テストの内容・自主性・授業態度・対応力・作品or研究				
テキスト	文化論・コーディネートテクニック②・プリントetc				

学科	美容科	担当教員	高橋、古荘		
科目名	文化論(フォト)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	ポートレート写真撮影をベースに、良い写真とはどういうものか（アングル、明度、彩度、フォーカスなど）を学習する。美容写真撮影の工程が理解できるようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	フォト授業の目的について スマホ使用での「アングル」学習、一眼レフカメラの扱い方				
2	一眼レフカメラによる、各種設定と、その効果について				
3	一眼レフカメラによる、各種設定と、その効果について				
4	作品撮り				
到達目標	サロンなどで行っている「作品撮り」をどのように行っているのか理解できるようになる また、簡単な作品撮影が出来るようになる				
評価方法	提出課題により100点満点で評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	オリジナルテキスト「美容フォト」「美容フォト設定編」使用。				

学科	美容科	担当教員	畑中		
科目名	運営管理	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	仮想店舗の創作を体験したり、「運営管理」のテキストで理論を習得したりすることで、将来、サロン内外で管理業務的職務の遂行が必要になった場合に対応できるようになる。				
授業回	学習内容				備 考
1	テキストを活用し、「財務と税金」の復習 【到達目標】 ・社会保険の種類とその中身を説明できるようになる。				
2	テキストを活用し、「社会保険知識」の復習 【到達目標】 ・社会保険の種類とその中身を説明できるようになる。				
3	貯蓄の重要性の理解と班別に創作したコンセプトの確認（前半） 【到達目標】 ・マーケティングとは何か。どのように差別化された店舗コンセプトを作ったら良いのかを説明できるようになる。				
4	班別に創作したコンセプトの確認（後半） 【到達目標】 ・どのように差別化された店舗コンセプトを作ったら良いのかを説明できるようになる。				
5	班別に作成した仮想店舗の損益計算の確認（前半） 【到達目標】 ・なぜこのくらい売上高が必要なのかを説明できるようになる。				
6	班別に作成した仮想店舗の損益計算の確認（後半） 【到達目標】 ・なぜこのくらい売上高が必要なのかを説明できるようになる。				
7	テキストを活用し、財務、税務、労基、社保の復習と全体の小テスト 【到達目標】 ・サロン運営はどのようにするのかの概略を説明できるようになる。				
8	学科試験				
到達目標	サロン運営の基礎知識を学び、将来的に、店舗オーナーや管理者になったときに役に立つ知識を仮想体験すると同時に、国家試験科目「運営管理」に対応するものとする。				
評価方法	個別の知識については、期末にテストを行い、また毎時間5問程度の小テストを行い、その点数により、また、市場創造力については、発表内容によって評価する。				
テキスト	学校から配布する「運営管理」テキストを必ず持参し、当方が準備するプリントをコピーして頂いて、配布して使用				

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・高橋		
科目名	美容技術理論	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解することが出来るようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1回（2h）	まつ毛エクステンション/まつ毛エクステンション技術に必要な用具類とテーブルセッティング方法、基本的技術の目的と手順、施術時の注意事項を理解する。				
2回～4回 （8h）	総合理論/美容技術理論教科書 1， 2 から国家試験に出題傾向の高い箇所を復習し、過去問を解ける。				
5回～14回 （28h）	学科模試/ペーパーテストを行い100点満点中60点以上取得する				
15回 （29h）	学期末試験/これまでの知識をペーパーテストにて測定する（100点満点中60点合格）				
到達目標	美容技術における用具・器具の取り扱い、衛生措置を十分理解し、美容師としての基礎的技能を習得する。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・高橋		
科目名	美容技術理論	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解することが出来るようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1回～20回 (39 h)	総合理論/美容技術理論教科書 1, 2 から国家試験に出題傾向の高い箇所を復習し、過去問を解ける。				
21回～29回 (59 h)	学科模試/ペーパーテストを行い100点満点中60点以上取得する				
30回 (60 h)	学期末試験/これまでの知識をペーパーテストにて測定する (100点満点中60点合格)				
到達目標	美容技術における用具・器具の取り扱い、衛生措置を十分理解し、美容師としての基礎的技能を習得する。				
評価方法	各期の学科試験、小テスト (学科試験80%、小テスト20%)、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数 (全体の2/3) を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	「美容技術理論 1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・高橋		
科目名	美容実習 (カット〔レイヤースタイル〕)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	頭部の形状を理解させ、指定したアウトラインおよび長さに対して正しくレイヤースタイルを作成することができるようにする。施術面の高さや向きに応じて、正しい作業姿勢をとれるようにする。				
授業回	学習内容/本時の到達目標				備 考
1・2	完成形したスタイルの解説展示、ブロッキング、フロントの切り方 /スタイル及びブロッキング構成を理解する。フェイスラインの毛髪を水平に引き出すことができる。				
3～6	ヘムライン、アンダーセクションの切り方 /正確な毛髪の引き出しによってヘムラインを形づけ、ヘムラインとアンダーセクション共に左右対称にカットができる。				
7・8	ミドルセクション、オーバーセクション /オーバーダイレクションを理解し、長さの違うガイド同士を繋げることができるようになる				
9・10	フロントオーバー、テックカット /バックセクションから長さの短いフロントのガイドまで、長さ調節をしながら繋げることができる。審査ポイントを理解し整えることができる。				
11～15	全頭復習カット /各セクションの注意事項を復習しながら全頭をカットすることができる。				
16～38	全頭復習カットタイム入れ /時間を意識してレイヤースタイルを作成することができる。				
30	セიმレングス実技試験 /定められた時間内にレイヤースタイルカットができる。				
到達目標	頭部の形状を理解したうえで、指定したアウトラインおよび長さに対して正しくレイヤースタイルを作成することができる。スタイルの構成を理解したうえで作成することができる 美容科DP②・③、CPⅢ～Ⅴに該当				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」（日本理容美容教育センター指定教科書）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・高橋		
科目名	美容実習 (パーマ〔スタイル巻き〕)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	頭の丸みを理解しオンベースとオフベースの違いを理解させる。スライスを任意にとることができ、任意のベースで適切に巻き収めることができる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1回 (2h)	国家試験課題の確認(パーパスとの違い)、ワインディング理論のおさらい /ワインディング技術の違いを理論的に説明できる。				
2回 (4h)	10ブロッキング、第2ブロック展示・練習/左右対称にロッド幅でブロッキング がとれる、スライスを平行にとり第2ブロックを巻き収められる				
3～4回 (6～8h)	前回のおさらい、第3、4ブロック展示練習 /オフベースに巻き収め る際の留意点理解し、巻き収めることができる。				
5～6回 (10～12h)	センター(第2～4ブロック)練習、タイム入れ /オンベースとオフベースを適切に巻き分けることができる。				
7～10回 (14～20h)	フロント(第1ブロック)展示・練習 /フェイスラインに対してラウンドして巻き収めることができる。				
11～14回 (22～28h)	右バックサイド、ネープ、サイド展示・練習 /任意のスライスに対して直角に巻き収めることができる。				
15～18回 (30～36h)	左バックサイド、ネープ、サイド展示・練習 /左右のシンメトリーを意識して巻き収めることができる。				
19～24回 (38～48h)	全頭巻き練習、タイム入れ(35分) /センターを平行かつ左右対称に巻き収めることができる。				
25～29回 (50～58h)	全頭タイム入れ(30～25分) /定められた時間内に留意点すべてを押さ えて巻き収めることができる。				
30回 (60h)	全頭25分試験 /25分間で国家試験合格水準の作品を作り上げることができる。				
到達目標	基礎となる上・下巻きにおいて、オン・オフベースを巻き分けることができる。任意にとったスライスに対して巻き収まりや完成形を想像して適切に巻き収めることができる。左右対称に巻き収めるための留意点を説明できる。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・高橋		
科目名	美容実習 (リアシャンプー)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	サイドシャンプーとの違いを理解させ、技術上の注意点を把握させる。また、その特徴からそれぞれの技術や処理との相性を認識させる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標				備 考
1回 (2 h)	リアシャンプー理論、サイドとの差異の説明、手順説明 /サイドとリアの違いを説明できる。				
2回 (4 h)	教室にてウィッグで手順確認・練習 /理論上の注意点を説明できる。				
3～4回 (6～8 h)	実習室の使用方法和注意、プレーンリンス～シャンプー /施設の使用方法和注意について説明できる。				
5～10回 (10～20 h)	シャンプー～マッサージ～ブロー練習・タイム入れ /手順を認識し、適切に施術できる。				
11～12回 (22～24 h)	シャンプー～ブローー連テスト /定められた時間内に施術を完了することができる。				
13回 (26 h)	ヘッドスパ理論、手順説明・練習(教室にてウィッグ) /ヘッドスパの目的と手順を理解する。				
14～15回 (28～30 h)	ヘッドスパ練習、ペーパーテスト /頭部の形状に対して適切な手技が施せる。ペーパーテストはこれまでの の施術工程と意味合いの理解ができている。				
到達目標	リアシャンプー特有の利点・注意点をそれぞれ把握し、他の技術との関連や顧客の状態等からサイド・リアの選択ができる。				
評価方法	ペーパーテスト(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・高橋		
科目名	美容実習 (リアシャンプー)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	30
教育目標・ ねらい	リアシャンプーの特徴でもある、リラクゼーション技術との関連性を理解させ、キャリアにおける幅を持たせる。技術から販売促進(現場的技術)の想像をさせる。				
授業回	学習内容/本時の到達目標				備 考
1回 (2h)	前期復習、ヘッドスパ理論説明、手順確認(座学) /ヘッドスパのプロセスを説明できる。				
2～3回 (4～6h)	リアシャンプー復習、ヘッドスパ練習 /シャンプーとヘッドスパの意義の違いを説明できる。				
3～4回 (6～8h)	ヘッドスパ練習(タイム入れ) /定められた手順でヘッドスパを施術することができる。				
5回 (10h)	顧客に適性のある商品の選定について(毛髪化学の観点から) /頭皮と毛髪の状態に応じて必要となる成分が説明できる。				
6～13回 (12～26h)	ヘッドスパ、販売促進練習(タイム入れ) /定められた時間内に一連の技術の提供、ならびに顧客の毛髪の状態 を正確に把握し、商品の推薦ができる。				
14～15回 (28～30h)	ヘッドスパ実技試験、販売促進(毛髪化学)学科試験 /定められた時間内に技術においては手順として、知識においては事例 対応という形で能力を発揮することができる。				
到達目標	リラクゼーションという技術の需要を理解し、それと関連して商品の販売や他の技術の販 売促進の想定をできる。マッサージ技術による頭皮・毛髪に対する効果を説明できる。				
評価方法	各期実技試験(100点満点)、学科試験(100点満点)で総合的に評価する。なお、所定授業時 数(全体の4/5)を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏ま え、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・高橋		
科目名	美容実習 (オールウェーブセッティング)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	基礎となるコームの持ち方、運指を身につけさせ、作業面と姿勢の関係を理解させる。毛髪の扱いを習得させ、任意の形状に形成し留めることができるようにする。頭部の形状と毛髪の流れのつながりを理解させ、仕上がりを想像できるようにする。				
授業回	学習内容/本時の到達目標			備 考	
1～4回 (2～8h)	ウィッグ作製、ローション塗布、コームの持ち方説明 /ウィッグの適切なコンディションを判断できる。				
5回 (10h)	ヘアセッティング理論、授業の流れ説明(フル・オールウェーブ) /理論的に完成形の構成及び授業の進行を説明できる。				
6～7回 (12～14h)	1段目くり抜き、ウェーブ・リッジ展示・練習 /基礎となるコームの持ち方、動かし方ができる。				
8～9回 (16～18h)	2.3段目ウェーブ・リッジ展示・練習 /頭の丸みに沿ってハーフウェーブを形成することができる。				
10～11回 (20～22h)	4～7段目ウェーブ・リッジ展示・練習 /頭部の形状、作業面に合わせて適切な作業姿勢をとることができる。				
12～14回 (24～28h)	フルウェーブタイム入れ(50～25分) /定められた時間内に任意のフルウェーブを形成することができる。				
15回 (30h)	フルウェーブ25分チェック /25分間で意図したフルウェーブが形成でき、失格事項についても審査対象とならない。				
16～17回 (32～34h)	1段目ピンカール展示・練習 /任意の範囲でハーフウェーブを形成することができる。				
18～19回 (36～38h)	1段目復習、3段目スカルプチュアカール展示・練習 /フラットカールの要点を理解し、作り上げることができる。				
20～21回 (40～42h)	1.3段目復習、4段目以降ブロッキング、4段目Cカール展示・練習 /フルウェーブのつながり、頭部の部位ごとのバランスを理解し、カールスペースを分けとることができる。				
22～23回 (44～46h)	1～5段目復習、6段目メイポールカール展示・練習 /カールにおける毛先の処理、ピニングが適切にできる。				
24～25回 (48～50h)	1～6段目復習、7段目クロッキノールカール展示・練習 /作業面の変化に対して、適切な姿勢をとり、カールを形成できる。				

26～27回 (52～54 h)	3～7段目各カール練習 /各カールの作成手順、規定を説明できる。	
28～29回 (56～58 h)	全頭タイム入れ(50～30分) /任意のウェーブ、カールを形成することができる。	
30回 (60 h)	全頭30分実技試験 /30分間で規定内のオールウェーブを形成することができる。	
到達目標	作業面の変化に対して、身体の高さ・姿勢を変えることができる。仕上がりを想像して毛髪を形成を任意に形成し、ピンを用いて留めることができる。	
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない	
テキスト	「美容技術理論 1・2」「技術テキスト」	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う	

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・高橋		
科目名	美容実習 (美翔祭)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	90
教育目標・ ねらい	これまで学んだ美容知識、技術を出し合いヘアショーを完成させると共に、ひとつの企画に複数人で携わることで人間関係の構築の大切さや難しさを学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1回～10回 (20 h)	ヘアショーの企画立案/これまで学んだ美容技術で自分たちの表現したいショーの案を出し合いプレゼンテーションをする				
11回～20回 (40 h)	モデルカルテの作成/企画したヘアショーに対してのイメージをモデルカルテを通して表現できる				
21回～40回 (80 h)	モデル実習/各チームに分かれ企画したヘアショーに対してのイメージを人間モデルを通して表現できる				
41回～45回 (90 h)	ヘアショー演習/本番を想定したヘアメイクとモデルウォーキングができる				
到達目標	ヘアショーを通して自身の技術提供のレベルの把握とひとつの企画に複数人で携わることの理解				
評価方法	ヘアショーの完成とモデルカルテの提出および作品制作				
テキスト	「美容技術理論１・２」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・高橋		
科目名	美容実習 (実務実習)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	自らの進路目標を早期に明確化し、進路目標の設定に伴って、教科科目に対する学習意欲を喚起する				
授業回	学習内容			備 考	
1～10回 (60 h)	・ 職業に対する理解を深め、サロン運営について理解を深める ・ 習得した技術、接客を実践する				
到達目標	現場経験を通じた自己理解の深化と、自身の目標を具体化し、将来のキャリアを描くことができる。現場での経験を就職活動に活かすことができる。				
評価方法	実務実習要項の到達目標の評価（5段階）とサロン指導者の評価（5段階）の平均で評価する。				
テキスト	実務実習要項、ビジネスマナーテキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	船田		
科目名	美容美術（造形学とデザイン）	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	24
教育目標・ ねらい	限られた条件のもとで工夫し、思考する力を養う				
授業回	学習内容			備 考	
1	他人の伝える情報に基づいて想像したスタイリングの全身像を制作する。まずはもとになるマネキンをつくる。				
2	ダクトテープとラップ、新聞紙や綿などを素材としてマネキンをつくる。この回で上半身をつくる。				
3	マネキン作成の続き。この回で頭部・下半身をつくり、マネキンが完成。				
4	他人（クラスメイト）から伝えられた情報の人物の特徴を考察し、スタイリング案を練る。				
5,6,7	スタイリング案がまとまった人から制作に移る。				
8	全身像完成。情報元の相手に全身像を見せ、情報よ似姿の差異について考察する。				
9,10,11	指摘された内容をもとに、修正を行う。				
12	総括。学生がそれぞれの作品について解説を発表する。				
到達目標	それぞれ固有の背景・物語を持った人格を、全身像を通じて表現する。				
評価方法	提出課題、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	随時用意。				

学科	美容科	担当教員	永岑		
科目名	美容美術（店舗設計）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	6
教育目標・ ねらい	店舗設計を通じて、お客様（社会）が求めるサロンを自らが考える力を身につける				
授業回	学習内容			備 考	
1・2	最新の店舗デザインと理美容業界のマーケティング				
	【目標】 様々な店舗を知り、将来造りたい（勤めたい）サロンをイメージする				
	【目標】 美容業界の過去の変遷を学び、今後の社会が望むサロンづくりを考える				
3・4	店舗に関わる法的概要と店舗レイアウトの考え方				
	【目標】 美容師法を理解し、開業時に必要な事項を身に付ける				
	【目標】 行動学・心理学に基づき、儲かる店のレイアウトの考え方を身に付ける				
5・6	色と光（照明）の基礎知識・演出手法と各講義の理解度テスト				
	【目標】 色は光に依って見え方が変わり、技術がより良く見える演出手法を身に付ける				
	【目標】 各講義の理解度および受講生の興味項目を知る				
	学科試験				
到達目標	各講義の基礎知識を身に付け、勤めたい店（開業したい店）のイメージを作り上げる				
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80％、小テスト20％）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	パワーポイントでの映像およびプリント				

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・高橋		
科目名	ビジネスマインド	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	15
教育目標・ ねらい	社会人・職業人として、組織の中で自分が振る舞うビジネスマナーを正しく理解し行動変容を行う加えて、自身の課題に向き合う課題発見能力や問題解決能力を養い、 <u>自律した思考と行動の実践。</u>				
授業回					備 考
1	LESSON6 ビジネスパーソンとしてのマナー（復習） 「6-1 時間のマナー、6-2 仕事上のコミュニケーション、6-3PDCA」 【到達目標】職場での円滑な関係性を築くための基本マナーの習得。				ビジネス マナーテキスト P.51～54
2	LESSON2 身だしなみ+立ち居振る舞い（復習） 「2-1 身だしなみ、2-2 立ち居振る舞い」 【到達目標】『品性』のある身のこなしを学び、実践する。				ビジネス マナーテキスト P.10～15
3	LESSON3 言葉遣い①「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。				ビジネス マナーテキスト P.16～24
4	LESSON3 言葉遣い②「1-2 OK行動、3-1 敬語、3-2 敬語のテクニック、3-3 気になる日本語、3-4 よく使う接客用語」 【到達目標】職業人としての言葉の使い方を学び、表現できる。				ビジネス マナーテキスト P.16～24
5	LESSON1 ビジネスパーソンとは① 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテンシーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える				オリジナル教材 Powerpoint KJ法ワークショップ
6	LESSON1 ビジネスパーソンとは② 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテンシーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える				オリジナル教材 Powerpoint KJ法ワークショップ
7	LESSON1 ビジネスパーソンとは③ 「1-4働く心構え」入社直前編 【到達目標】『9つの意識』を理解し、働く上で必要なマインドとコンピテンシーを具体的に言語化し、正しい価値観・職業観を学び、就職に備える				プレゼンテーション
8	クラス目標・個人目標振り返り				クラスミーティング
到達目標	社会人として自分の立ち位置や直面する状況を理解し、適切な対応をとることができる。 このことにより組織の一員として認められるようになる。				
評価方法	個人目標振り返りによる自己評価と、それに基づく担任面談の結果による。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	ビジネスマナーテキスト				

学科	美容科	担当教員	藤原		
科目名	高度総合美容技術理論 (美容英会話)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	講義及び演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	10
教育目標・ ねらい	1. 美容サロンのシチュエーションで、ボキャブラリの学習を主体として将来に役立てる。 2. シンプルな文系を繰り返し使い、実用的なフレーズの定着を図る。 3. アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	Warm Up - 自己紹介 Review (1) of Unit 1 - 4 Unit 8 Perming 【到達目標】 ・ 1学年で習得した単語やフレーズを使い、英語で会話を行う ・ パーマに関連した単語やフレーズを習得し、パーマに関する会話を英語で行う				
2	Warm Up - 自己紹介、自分の事を話す Review(2) of Unit 5 - 8 Unit 9 Colouring 【到達目標】 ・ 1学年で習得した単語やフレーズを使い、英語で会話を行う ・ ヘアカラーに関連した単語やフレーズを習得し、ヘアカラーに関する会話を英語で行う				
3	Warm Up - Small Talk (相手を褒める) Unit 9 の復習 Unit 11 - Advice 自己紹介のプレゼンのための準備 【到達目標】 ・ アドバイスに関連する単語やフレーズを習得し、英語でアドバイスをする ・ 異文化における自己紹介を理解し、自己紹介を行うために必要な単語やフレーズを習得する				
4	Warm Up - Eye Contact Unit 12 Payment Self-introduction Practice 1 【到達目標】 ・ 支払時の会話に関連する単語やフレーズを習得し、会話を英語で行う ・ 前回から準備している自己紹介（1 分間）を英語で行う				

5	<p>Warm Up - 異文化や英語でのコミュニケーションを学ぶ</p> <p>Review (3) of Unit 9 - 12</p> <p>Self-introduction Practice 2</p> <p>テスト（20分間）</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Unit 9 -12 に出てくる単語やフレーズを習得する ・ 前回から準備している自己紹介（2分間）を英語で行う 	
到達目標	アクティビティを通し、実践的かつ英会話の楽しさを学べる演習を実施し、将来に役立てる	
評価方法	各期の学科試験、小テスト（学科試験80%、小テスト20%）、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。	
テキスト	English for Beauty Salons	

学科	美容科	担当教員	井川		
科目名	高度総合美容技術理論 (美容広告・宣伝)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	講義・演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	8
教育目標・ ねらい	現代社会は、デジタル化が急速に進み、人々の価値観やライフスタイルが多様化しています。美容業界においても、技術力に加え、情報を効果的に発信し、届ける力が成功の鍵となっています。多様なニーズに応えるためには、生成AIやクラウドなどのテクノロジーを活用しながら、柔軟に対応できる力が求められています。本授業では、マーケティング思考、デジタルリテラシー、SNS運用、ブランディング、データ分析、動画編集・デザインスキルを学び、自己PRツール（ポートフォリオ）を作成します。自分の強みを最大限に活かし、未来の可能性を広げる力を養います。				
授業回	学習内容			備 考	
1	[第1回：情報活用能力の向上] ～デジタルスキルを磨く～ デジタル化のデジタル化の重要性を理解し、各種ツールを効果的に活用するための基礎を学びます。クラウドアプリの活用法、情報リテラシーの向上、SNSを使ったコミュニケーション技術など、デジタルを活用した顧客対応スキルを磨きます。また生成AIを仕事や日常生活に役立てるための基本的なプロンプトを学び、その応用方法を考えます。さらに、情報漏洩などのリスクマネジメントの重要性を理解し、安全にデジタルツールを利用するための知識を習得。			・参考資料 東洋経済「業界地図」、 ベネッセ「美容業界データ」、GoogleCloud	
2					
3	「第2回：広告とマーケティング」～行動科学～ マーケティング基礎として、STP分析、4P戦略、広告の種類と特徴、ターゲット設定とペルソナ作成を学びます。顧客の行動原理を理解する「行動科学」を取り入れ、行動経済学や心理学などの知見を応用した購買意欲を高める施策を学びます。演習では、架空のサロンを題材に、マーケティングプラン作成、広告立案、グループワークによる広告コンセプトの発表を行います。			「お客を虜にする7つのトリガー」サリーフォッグスヘッド、 「影響力の武器」ロバートチャルディーニ	
4					
5	[第3回セールスライティング] ～伝える力～ 顧客の行動を促すための「セールスライティング」スキルを習得します。セールスライティングの基本原則、ターゲットに響く言葉選び、キャッチコピー作成、ストーリーテリングを学び、実践的なライティングスキルを磨きます。演習では、学校ホームページのキャッチコピーやリード文作成、グループワークではセールスレター作成などを行います。			「セールスライティング」レイ・エドワーズ	
6					
7	[第4回：動画コンテンツ制作] ～ショートムービー～ スマホで簡単に作成できるショートムービーの制作を学びます。iMovieやCapCutを使用して、学生自身が考える「未来の美容師像」や「美容サービスの魅力を伝える」テーマで、短い動画を制作。ペルソナ設定やターゲット層を意識したコンテンツ作り、ストーリーテリングの手法を取り入れ、視聴者に響く映像表現を学びます。制作したショートムービーをクラス内で発表し、投票によるコンテスト行う予定。			iMovie、capcut、etc	
8					
到達目標	①デジタルスキル: クラウドアプリの活用や情報リテラシーの向上など、現代社会で必須のデジタルスキルを習得する。②マーケティングスキル: マーケティングの基礎知識を習得、顧客の購買意欲を高めるための効果的なアプローチができる。③セールスライティング：ライティングの基本を理解し、ターゲット層に響く言葉で効果的に情報を伝えることができる。④動画コンテンツ制作: 動画コンテンツ制作スキルを習得、情報発信の幅を広げることができる。				
評価方法	単元の終了時に実施するオンラインでの小テスト				
テキスト	前日にメールでデータ送信する資料（A4 2 P～程度） 予定				

学科	美容科	担当教員	漆原		
科目名	高度総合美容技術理論 (簿記)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	演習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	12
教育目標・ ねらい	サロン経営に必要な財務的視点の習得				
授業回	学習内容			備 考	
1	・簿記の基本的な考え方、勘定科目について 【到達目標】資産・負債・資本・収益・費用に属する勘定科目に関する知識の学習し、正しく説明することができる。				
2	・財務三表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の概要） 【到達目標】簿記の基礎的事項である借方・貸方の意味を理解し、損益計算書・貸借対照表の体系を把握し、正しく説明することができる。				
3	・収益構造（店舗経営における、財務的視点） 【到達目標】収益・費用の種類と認識・測定の基準を学習し、様々な形態の収益について、実現主義を適用する際の工夫や実現主義の例外として利益に発生主義や現金主義を適用する例を理解し、正しく説明することができる。				
4	・損益分岐点（損益分岐点及び不随する事項における店舗経営の実例） 【到達目標】損益計算書の意義を理解し、作成方法を理解し表にすることができる。				
5	復習				
6	グループワーク				
到達目標	グループごとに店舗の収益構造をしっかりと理解できるようになる				
評価方法	確認テスト、出席状況、受講態度等を考慮して成績評価する。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る学生は受験することができない。				
テキスト	プリント				

学科	美容科	担当教員	立花		
科目名	高度総合美容技術実習 (香粧品製造)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	6
教育目標・ ねらい	国家試験の意識と現場でも必要な知識を香粧品製造を通して学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	【ヘアワックスの製造】 ヘアワックスの処方に配合されている成分と製造方法の解説、実際に製造を行いヘアスタイリング剤に対しての知識を深める。 ヘアスタイリング剤の種類を知ることにより、今後の実践に必要な知識を身に着け体感する。			・ヘアワックス剤の製造に必要な原料の準備 ・作成物を充填する容器	
2	【ヘアスタイリングジェル、ヘアトリートメントオイルの製造】 ・ヘアスタイリングジェル、ヘアトリートメントオイルの処方に配合されている成分と製造方法の解説、実際に製造を行いインバスとアウトバストリートメントとの違いから配合量や成分に対しての知識を深める。 ヘアスタイリング剤のの種類を知ることにより、今後の実践に必要な知識を身に着け体感する。			・ヘアヘアスタイリングジェル、ヘアトリートメントオイルの製造に必要な原料の準備 ・作成物を充填する容器	
3	【ヘアマニキュアの製造】 ヘアマニキュアの処方に配合されている成分と製造方法の解説、実際に製造を行いカラー剤に対しての知識を深める。 ヘアマニキュアの種類を知ることにより、今後の実践に必要な知識を身に着け体感する。			・ヘアマニキュアの製造に必要な原料の準備 ・作成物を充填する容器	
到達目標	染色時のヘアカラー剤の種類や成分の作用の違いを理解し、製造できる。またヘアワックス、スタイリングジェルを通して、ヘアスタイリング剤の成分の違い使用方法を理解し、製造できる。				
評価方法	対象とする試作品と同等のものを作製できること。なお、所定授業時数（全体の2/3）を下回る出席者は評価対象としない。				
テキスト	(株)ミューズ研究所作成テキスト				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は20年以上の化粧品製造会社での実務歴を有し、サロンスタッフ(特にインターン)が施術する際に極めて重要な毛髪に関する実践的知識を伝える				

学科	美容科	担当教員	立花		
科目名	高度総合美容技術実習 (毛髪化学)	学 年	2	実施時期	前期・後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	24
教育目標・ ねらい	現場に必要な知識と技術を実習を通して学ぶ				
授業回	学習内容			備 考	
1	カラー理論/カラーチャートの作り方				
2	カラー剤を使用して塗布の練習				
3	カラーとデザインカラーの違い				
4	ウィック実習 実際に染めてみて検証				
5	モデル実習アイモデルでお互いを染め合う ブリーチのみ				
6	モデル実習 乳化の大切さ知る ティントで色入れ				
7	アフターケアを理解。カラーシャンプーを作る				
到達目標	サロンでカラーリストとして通用するスタッフの育成				
評価方法	カラーの理論を理解 塗布の仕方を正しく理解する				
テキスト					
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：担当教員は20年以上の化粧品製造会社での実務歴を有し、サロンスタッフ(特にインターン)が施術する際に極めて重要な毛髪に関する実践的知識を伝える				

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・高橋		
科目名	高度総合美容技術実習 (資格試験課題 第一課題)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	90
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解し、資格試験課題第一課題を合格レベルまでの技術を修得する				
授業回	学習内容			備 考	
1回～20回	国家試験課題レイヤースタイルの復習/指定課題を完成させることができる				
21回～60回	国家試験課題レイヤースタイルー連タイム入れ（20分） /時間を意識して完成させることができる。				
61回～90回	国家試験課題レイヤースタイルー連タイム入れ（19分） /時間を意識して完成させることができる。				
到達目標	資格試験課題第一課題の基礎を理解し、合格レベルまでの技術を修得する				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論１・２」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・高橋		
科目名	高度総合美容技術実習 (資格試験課題 第二課題)	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	90
教育目標・ ねらい	美容技術理論の基礎とともに、技術内容とあわせて理解し、資格試験課題第二課題を合格レベルまでの技術を修得する				
授業回	学習内容			備 考	
1回～20回	国家試験課題第二課題の復習/指定課題を完成させることができる				
21回～60回	国家試験第二課題一連タイム入れ（国家試験指定タイム） /時間を意識して完成させることができる。				
61回～90回	国家試験第二課題一連タイム入れ（国家試験指定タイム-1分） /時間を意識して完成させることができる。				
到達目標	資格試験課題第一課題の基礎を理解し、合格レベルまでの技術を修得する				
評価方法	各期実技試験(100点満点)で評価する。なお、所定授業時数（全体の4/5）を下回る学生は受験することができない				
テキスト	「美容技術理論1・2」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・高橋		
科目名	高度総合美容技術実習（匠すと）	学 年	2	実施時期	後期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 （単位）	15
教育目標・ ねらい	匠すと（校内コンテスト）の各競技内容に合わせて、美容技術理論の基礎および技術内容の理解をすることが出来るようにする。				
授業回	学習内容			備 考	
1	匠すとの競技内容の理解と実施計画の作成 /各自が出場する競技内容が全て説明でき、当日までの計画を作成する				
2	各競技ごとにおいて仕込みを行う /計画に基づいた仕込みができています				
3・4	各競技ごとにおいて本番を想定したタイム入れ /競技規定に沿った作品を仕上げる事ができている				
5	【匠すと（校内コンテスト）】 /各競技規定に則り作品を完成させる				
到達目標	1年次に修得した技術を用いて、各競技ごとに応用力を発揮することができるようになる。				
評価方法	課題提出（競技内容によって提出内容は異なる）				
テキスト	「美容技術理論１・２」「技術テキスト」				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・高橋		
科目名	高度総合美容技術実習 (ヘアデザインコース)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	ヘアデザイン制作に必要な展開図の知識、それを再現するためのカット、ブロースタイリングの技術を修得する。				
授業回	学習内容				備 考
1回～3回 (6h)	カット（展開図）復習、国試カットウィッグを引き出して展開図作成、メンズスタイル展開図2種類/指定スタイルの展開図およびカットブロースタイリングができる				
4回～6回 (12h)	トレンドカラー、トレーニングクリームにて塗布練習、ブリーチ塗布+オンカラー/トレンドカラーの塗布を再現できる				
7回～9回 (18h)	ダイレクションを使ったミディアムスタイル、ウルフレイヤースタイル/指定スタイルの展開図およびカットブロースタイリングができる				
10回～12回 (24h)	メンズスタイル（マッシュ系）、メンズスタイル（刈り上げ）/指定スタイルの展開図およびカットブロースタイリングができる				
13回～18回 (36h)	クリエイティブ作品模作/指定作品の展開図さくせいおよび模作ができる				
19回～24回 (48h)	クリエイティブ作品作成（テーマ有）/テーマに沿ったイメージ図、展開図、カット、スタリングを作成する				
25回～30回 (60h)	クリエイティブ作品作成（自由制作）、撮影、プレゼンテーション/テーマに沿ったイメージ図、展開図、カット、スタリングを作成しプレゼンテーションまで行う				
到達目標	スタイルの読み解き、展開図の作成、カットブロースタイリング技術を用いてそれらを再現する力が身についている。				
評価方法	作品提出、プレゼンテーション				
テキスト	技術テキスト（プリント）				
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う				

学科	美容科	担当教員	岡田・白渡・高橋		
科目名	高度総合美容技術実習 (トータルビューティコース)	学 年	2	実施時期	前期
授業形態	実習	必修・選択 の別	必修	授業時間 (単位)	60
教育目標・ ねらい	ヘアメイクやトータルビューティを美容師の教養として学び、ヘアセット、メイクの知識、技術を習得する。				
授業回	学習内容			備 考	
1	夜会巻き (バイアスリバース+サイド入れ込み) /面を綺麗に整えるスタイルの基礎ができるようになる				
2	フルメイク復習 /メイク授業で行ったフルメイクができる				
3	重ね夜会 (ツーポイント) /夜会巻きの応用ができるようになる				
4	似合わせメイク /モデルに似合ったメイクを理論を基にできるようになる				
5	カールダウンスタイル /カールアイロンの使用とスタイリングができるようになる				
6	似合わせメイク /モデルに似合ったメイクを理論を基にできるようになる				
7	ハーフアップスタイル /カールアイロンを使用しハーフアップスタイルができるようになる				
8	似合わせメイク /モデルに似合ったメイクを理論を基にできるようになる				
9	編み込みスタイル/三つ編み込み、四つ編み込み、ローブ編み込みを使用した スタイルができるようになる				
10	自分の顔のタイプ、パーソナルカラーを知ろう /パーソナルカラー診断ができるようになる				
11	夜会巻きスタイル復習 /面を綺麗に整えるスタイルの基礎ができるようになる				
12	キュートメイク /題材に沿ったメイクができるようになる				
13	自由創作/これまでの技術を用いてスタイルの考案から作成までできる ようになる				
14	フレッシュメイク /題材に沿ったメイクができるようになる				
15	自由創作/これまでの技術を用いてスタイルの考案から作成までできる ようになる				

16	クールメイク /題材に沿ったメイクができるようになる	
17	自由創作/これまでの技術を用いてスタイルの考案から作成までできる ようになる	
18	トレンドメイク /題材に沿ったメイクができるようになる	
19	自由創作/これまでの技術を用いてスタイルの考案から作成までできる ようになる	
20	創作メイク /これまでに習ったメイクを用いて自身の作品を表現できる	
到達目標	ヘアセット、メイクの知識、技術を習得し、モデルに合わせた技術が提供できる。	
評価方法	課題提出	
テキスト	プリント配布	
特記事項	実務経験者による実践的教育科目：各教員は最低4年以上の美容サロン勤務の経験を踏まえ、即戦力となる美容師養成の観点から授業を行う	